

総蛋白		332000			
		担当部署			
TP		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→			
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		緊急対応(24 時間)			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		採血時の体位について影響を受ける。仰臥位>立位 乳びによる影響を受けることがあるので、早朝空腹時採血が望ましい。 溶血による影響を受けることがあるので、採血時に注意が必要。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	他材料	10 青	分離剤	8	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			

検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		6.6-8.1g/dL 日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	g/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
6.6	8.1	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		<p>総蛋白量は日常初期診療における基本的検査の一つであり、生体異常をスクリーニングする目的で利用される。特に栄養障害、ネフローゼ症候群、肝疾患などを疑う場合には必須である。</p> <p>日本臨床第 7 版 223,2009</p>				